



もしもサルに出会ってしまったら



一般的に野生のサルは、こちらから何もしなければ
襲ってくることはありません。

サルに出会ったときは、おどかしたり、刺激したりせず、
落ち着いてその場から立ち去ってください。



サルからの逃げ方



近づかない

野生のサルはペットとは違い、人に慣れていません。
遠くでサルを見つけたときは、むやみに近づくと襲われる危険がありますので、
そのままサルから見えないところに離れましょう。
特に幼児は危険です。



目を合わせない

サルと目を合わせると、サルが威嚇されたと思い、
人が視線をそらしたときに襲ってくる場合があります。
サルの目を見ないでください。
もしも目が合ってしまったら、先に動かず、
サルが目をそらした時にこちらも目をそらし、落ち着いてその場から離れましょう。



刺激したり、エサを見せたりしない

サルと出会ったときに、
大声を出したり、物を投げたり、棒で追い立てたり、
サルが興奮して襲ってくる場合があります。
走って逃げず、落ち着いて、速やかにその場から離れましょう。
また、サルが人からエサを得られることを覚えると、人を恐れなくなり、
そこに居ついたり、人家に進入するなど、
地域全体に被害を引き起こす原因となります。

ニホンザルは本来群れで生活します。
しかし、ニホンザルのオスは、大きくなると違う群れに移る習性があり、
他の群れに移ろうとして迷った「離れザル」が、住宅街に出没する場合があります。
サルが住宅街へ逃げ込んだ場合には、警察へ110番通報、
または役場産業建設課(082-820-1536)に連絡してください。



サルを近づけさせないために



エサは絶対にやらない

有害鳥獣の出没や被害は、
畑や集落を「エサ場」と認識するところから始まります。
農作物や生ごみなどのエサがあり、
身を隠せる「ひそみ場」が確保できると
サルたちが私たちの町や畑を「エサ場」として、
また、人をエサの供給源として学習してしまいます。
可愛らしく見えても、野生動物には絶対にエサをやらないようにしてください。



🐒 サルはこんな動物です 🐒



《運動能力など》

- ・飛び跳ねて2mぐらいの高さまで手が届きます。
- ・モノを持ち上げる力はそれほど強くありません(10kg程度まで)。
- ・登ったり、飛び跳ねたりは得意です。
- ・視覚、聴覚、嗅覚は人間と同等です。

《特性など》

- ・記憶力(場所・出来事・人)や学習能力は高いです。
 - ・試行錯誤で学習します。物まねでは学習できません。
 - ・同じ刺激を繰り返すと慣れてしまいます。
 - ・行動時間は昼間です。
 - ・何でも食べる雑食性です。
 - ・何が食べ物であるかを学習により認識するようになります。
 - ・基本的には、10数頭~100頭程度の群れで活動します。
 - ・オスは大人になると群れから別れ、離れザルとして活動します。
- 民家近くで出没するサルは、離れザルであることが多いです。